

総会報告

平成14年度総会 会長挨拶

H14. 5. 18

藤原鎮男

平成14年度総会にあたり、会長としてお礼とご挨拶を申し上げます。お礼はまず、ただ今終了の研究報告会についてであります。早朝から最新の研究成果を発表された講師諸氏、それからこれに活発な質疑応答討論をされた会員諸氏にお礼申し上げます。別してこのプログラムを実現して下さった中川優実行委員長のお骨折りに対しても心からお礼申し上げる次第であります。

昨年の総会で私は、学会の経営が軌道にのったとご報告し、当年度はその充実を期したいと申し上げました。私はこの席で、ほぼこの目的が果たされた状況にあると申し上げ得ると存じます。詳細は後刻、役員諸氏よりご報告申し上げますが、本年度の学会運営で第一に申し上げたいことは、**第一回の評議員会**が開催されたことであります。その内容は、学会誌の11巻4号に紹介されておりますので、皆様はすでに御案内のことと存じますが、本学会のあり方、進め方について新鮮で有益なご意見が得られました。これは会の運営に直接の責任を負う理事会以外に、これを監査し、指導する意義を持ち、実際有益でありました。今後もこの線での評議員会の活発な活動を期待致します。本年は、これをさらに一步を進め、全会員の積極的な意見の導入を果たす努力をしたいと思っておりますので、ご協力を切に願う次第であります。

第二は学会誌編集態勢の整備であります。本年度から、投稿論文の審査や特集号の企画などの編集業務と、その他の編集事務を分離することになりました。これにより確実、安定した会誌の刊行が可能になると期待致します。今後の私どもの切なる願いは、わが学会誌が情報知識学の基幹的な発表の場となることであり、そのためには会員諸賢の積極的な投稿が必須であります。この点で会員諸賢の格段のご支援、ご協力を願いたく思います。

第三は、部会による学会活動の活性化であります。SGML・XML研修フォーラムが斯界を先導し、顕著な社会貢献を果たしていることは皆様ご承知の通りであります。さらに、人文・社会学系部会ないし、専門用語研究部会などもすでに有益な部会活動を果たしております。しかしながら、これらの活動内容は、全会員、ないしは一般社会全体に、十分理解されていない恨みがあります。我々は、本年度とくにこの点を反省し、改善したいと思っております。その関連で申し上げますが、本年度は当学会が創立された当時、その母胎の主翼を担ったCODATA部会を活性化し、活動を新たにしたいと考えております。我々は、この意識で部会を通じての本学会の活動を、全会員、さらには一般社会に広報したいと思っております。それには、ニューズレター、ホームページの充実をはかりたいと思っております。これは逆に言えば、会員諸賢が常時これをご覧下さって、それに意見を寄せてくださる、そういうご協力を願うことになります。是非ともこれにご協力願いたく思う次第であります。

最後に、**本学会の目標**について、若干、意見を申し上げさせていただきます。本学会は他の学会と同じように、専門家の相互交流、研究発表の場であることはもちろんであります。しかし、これにさらにもう一つ別種の性格を持つと私は考えます。

その第一は、**情報知識学会が情報知識社会のコオーディネーター、ないし、コンダクターとして働くべき責務を持つと考えること**です。つまり、本学会は一部門の専門家だけのものではなく、異種、他部門の協力の場合でもあるのです。このことがあるので、先年の学術会議の研究連

絡委員会、いわゆる研連、の改組のとき、各部にまたがる委員会として情報学関係に三研連がもうけられ、これに対応して本学会が創られたのです。情報知識の世界はいわば、コンテンツの制作、蓄積、あるいはそこで必要となる品質の確保、標準化などが所轄範囲となるコンテンツサイドと、その保持、保全の蓄積サイドがあり、さらにその流通が加わる世界であり、しかもそこでは、川上の水源から、川下の末端ユーザーまでの全水流が一体とならないと機能しないのです。とくにここで注意すべきことは、産官学からさらに、企業などの一般社会までを含めた情報知識社会全体を、学会活動の視野に置かねばいけないということでもあります。それ故、我々は、この基本認識の上に立ってこれまでいろいろな学会事業を進めて来ました。例えば、

1) 情報知識学社会における問題の提示と対応策の指針提示として、「知的所有権問題」についてフォーラムを3度にわたって開催し、また、有識者に論文発表を願いました。さらに現在では、電子図書館時代における、情報知識コンテンツの生産者とその利用者の乖離状況の調査・広報と対応策の策定が現代の最大課題の一であろうととらえ、この線での企業努力例の紹介、解説などに努めたいと思っています。また、

2) 情報知識の評価と標準化が現代の課題であります。例えば、現代はISOのように標準化で動く社会であり、計算機言語のようなコード表現の世界であることはどなたも認めることでありましょう。そこでは用語、言語、数値・ファクト情報として、多分野、多地域にわたる調整が問題であり、本学会は率先してその対応にあたっています。専門用語研究部会、CODATA部会はまさにそれであります。

3) 学会活動の展開 以上は当面の我々の活動目標です。それとともに、より長期的に、また、より全体的視野に立って情報知識社会のあり方を考えることも我々の使命でありましょう。

例えば、情報知識は人類の宝であり、我々は、これを子孫に残す使命を持っています。ところで今は、残すべき宝は紙なのか電子なのか。それが問われています。これについて今は誰も明確に答えることは出来ないでしょう。けれども、世界中がこれを考えてはいるわけです。それ故、国の内外の有識者がどのように取り組んでいるか、それを調べて社会に示すことも我が学会の仕事に入るのであると思います。

また、本学会は細分化した科学技術の専門世界のコーディネーターとして、働くべきものだと思います。情報知識は複雑系そのものですが、例えば数学でも経済学でも、これは好んで先端課題として議論する対象です。これらを総合協力する場を学会は唱導すべきではないでしょうか。具体的に会の役員から先日この視点による提議がありました。我が国のロボティクスは先進の状態に達しているけれども、さらにブレイクスルーの進展を期す上で、フアジー学の導入を図れぬものだろうかという意見でありました。

これとは少し趣を異にしますが、若手の教育にも学会は目を向けるべきでありましょう。例えば、各専門の現況を、分かり易く解説してもらえたら、若い優秀な若い学徒が好んで集まり、また、専門家も協力共同のチームをつくれるでしょう。それはまた、奇想天外なビジネスの着想にもなるのではないのでしょうか。本日の研究発表のなかにもその視点から興味を抱かせるものがあり、また企業サイドの学会役員から、その種の事業展開の紹介がすでにあります。

以上を整理して申し上げれば、このような思想で自由な活動家があつまるのが社会の公器たる学会の存在意義なのではないのでしょうか。私は、このような考えで理事会に臨んでおります。会員諸賢の今後一層のご指導、ご鞭撻を願う次第であります。

付記 本稿は総会の会長挨拶に若干の加筆を加えたものであります。

情報知識学会／平成14年度総会議事録

1. 開催日 平成14年5月18日(土) 17:50～18:15
2. 会場 学術総合センター2階中会議場(東京都千代田区一ツ橋2-1-2)
3. 議長 藤原鎮男会長、司会進行：根岸正光副会長
4. 議事
 - 1) 総会有効成立確認：事務局長
総会出席者27名、他に委任状35通の提出を受け、計62名。
依って定足数(正会員の10分の1)を満たし、総会成立。
 - 2) 議長挨拶：藤原鎮男会長
 - 3) 常務理事選任の件：藤原鎮男会長
 - 4) 平成13年度事業報告：藤原諱副会長
 - 5) 平成13年度決算報告：細野公男副会長
 - 6) 平成13年度監査結果報告：細野公男副会長
 - 7) 平成14年度事業計画説明：藤原諱副会長
 - 8) 平成14年度予算説明：細野公男副会長
 - 9) その他
会員より、刊行物の電子化促進要望の意見あり。

上記の報告および役員・事業計画・予算は、原案(総会資料)通り承認された。

情報知識学会／平成14年度総会資料

[資料1] 会員数

	平成13年 3月31日現在	平成13年度 入 会	平成13年度 退 会	平成14年 3月31日現在
正会員	3 3 3 名	2 6	4 3	3 1 6 名
学生会員	1 4 名	9	3	2 0 名
協賛会員*	2 2 (56)	0	6 (12)	1 6 (44)
合 計	3 6 9	3 5	5 2	3 5 2

* 協賛会員は全て団体。()内数字は口数。1口の年会費¥30,000。

[資料2] 平成13年度事業報告

(1) 会議

- ・平成13年 5月16日 17:30～20:00 理事会 於：凸版印刷(株)
- ・平成13年 5月19日 17:35～18:00 総会 於：学術総合センター
- ・平成13年 8月28日 17:30～20:00 理事会 於：凸版印刷(株)
- ・平成13年11月22日 17:30～20:00 理事会 於：凸版印刷(株)
- ・平成14年 2月21日 18:00～20:00 評議員会 於：凸版印刷(株)
- ・平成14年 3月20日 17:30～20:00 理事会 於：凸版印刷(株)

(2) 事業

- ・「情報知識学会／第9回研究報告会」主催 於：学術総合センター
平成13年5月19日
- ・第16回「歴史研究と電算機利用ワークショップ」 人文・社会学系部会主催
於：法政大学 平成13年7月14日
- ・「可視化技術シンポジウム2001」後援 於：日経ホール (株)日経サイエンス主催
平成13年9月29日
- ・「第6回SGML/XML研修フォーラム」主催 於：グランドヒル市ヶ谷
平成13年10月29～30日
- ・「2001XMLジャパン」後援 於：青山テピア XMLジャパン実行委員会主催
平成13年11月8～10日
- ・「第14回専門用語シンポジウム」 専門用語研究部会主催 於：家の光会館
平成13年12月1日
- ・「第4回EAFTerm」 専門用語研究部会後援 於：家の光会館
平成13年12月2日
- ・「人文科学とコンピュータシンポジウム」後援 於：大阪市立大学
(社)情報処理学会主催 平成13年12月14日
- ・「2002年情報学シンポジウム」 日本学術会議他と共催 於：日本学術会議講堂
平成14年1月17～18日
- ・「ノーベル賞100周年記念国際フォーラム」後援 於：東京大学、国立京都国際会館
平成14年1月16～17、20日
- ・第17回「歴史研究と電算機利用ワークショップ」 人文・社会学系部会主催
於：法政大学 平成14年3月23日

(3) 月例懇話会

- ・第14回～第22回 (4/3, 6/5, 7/3, 9/4, 10/2, 11/6, 12/4, 2/5, 3/5)
於：世界貿易センタークラブ (東京・浜松町・世界貿易センタービル38階)
{講師名敬称略} 2001/4/3細野公男, 6/5太田泰弘, 7/3平田周, 9/4深見拓史,
10/2月見礼次郎, 11/6岩渕幸雄, 12/4(自由討議), 2/5大野照夫, 3/5中山亮一。

(4) 刊行物

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| ・ 情報知識学会誌 11 巻 1 号 | 平成 13 年 4 月 28 日発行 |
| ・ 第 9 回(2001年度)研究報告会講演論文集 | 平成 13 年 5 月 19 日発行 |
| ・ ニュースレター第 58 号 | 平成 13 年 7 月 1 日発行 |
| ・ 情報知識学会誌 11 巻 2 号 | 平成 13 年 11 月 1 日発行 |
| ・ 情報知識学会誌 11 巻 3 号(特別号) | 平成 13 年 10 月 29 日発行 |
| ・ ニュースレター第 59 号 | 平成 13 年 12 月 1 日発行 |
| ・ 情報知識学会誌 11 巻 4 号 | 平成 14 年 3 月 31 日発行 |

〔資料 3〕平成 13 年度決算書

〔収入の部〕（単位：円）

科 目	H13年度予算	H13年度実績	差 異
前年度繰越金	1,103,321	1,103,321	0
会費収入（個人）	2,720,000	2,770,330	50,330
会費収入（法人）	1,680,000	1,440,000	-240,000
学会誌別刷代	100,000	46,300	-53,700
講演論文集代	100,000	111,000	11,000
雑収入	295,679	36,001	-259,678
事業収入	2,000,000	963,345	-1,036,655
利息	1,000	1,105	105
合 計	8,000,000	6,471,402	-1,528,598

〔支出の部〕（単位：円）

部 門	科 目	H13年度予算	H13年度実績	差 異
ニュースレター編集部門	印刷代・送料	300,000	210,252	89,748
ニュースレター編集部門	編集経費等	50,000	0	50,000
学会誌編集部門	印刷代・送料	1,800,000	1,098,817	701,183
学会誌編集部門	編集経費等	300,000	65,500	234,500
学会誌編集部門	電子化調査	100,000	0	100,000
企画部門	セミナー備品等	400,000	333,730	66,270
企画部門	講師謝礼等	400,000	184,300	215,700
研究報告会	講演論文集印刷代	300,000	288,540	11,460
研究報告会	親睦会経費	0	0	0
総務部門	入会案内作成費	100,000	99,036	964
総務部門	理事会実施費用	120,000	115,420	4,580
事務局・その他	事務用品代	200,000	65,519	134,481
事務局・その他	通信費・送料	300,000	287,607	12,393
事務局・その他	印刷代（封筒等）	100,000	92,925	7,075
事務局・その他	振込手数料	10,000	8,400	1,600
事務局・その他	総会実施経費	20,000	45,130	-25,130
事務局・その他	業務委託費	1,800,000	1,950,000	-150,000
事務局・その他	交通費その他	700,000	511,188	188,812
事務局機構拡充積立金		400,000	400,000	0
予備費／次年度繰越金		600,000	715,038	-115,038
合 計		8,000,000	6,471,402	1,528,598

[貸借対照表]

平成14年3月31日現在(単位:円)

科 目	借 方	貸 方	備 考
1. 資産の部			
現金	0		
普通預金(UFJ銀行)	372,098		
定期預金(UFJ銀行)	1,000,000		
郵便振替口座	1,226,940		
定額郵便貯金	1,800,000		
2. 負債の部			
前受金		134,000	次年度年会費
未払費用		350,000	会誌11巻4号印刷代
3. 特別会計			
事務局機構拡充積立金		3,200,000	
4. 正味財産		715,038	
(内当期正味財産増減)		(▲388,283)	
合 計	4,399,038	4,399,038	

[資料4] 監査報告書

監査報告書

情報知識学会

会長 藤原鎮男 殿

作成日 平成14年5月15日

情報知識学会 監事 矢戸駿太郎

情報知識学会 監事 月見里禮次郎

当監事は、情報知識学会定款第19条に基づく監査証明を行うため、情報知識学会の平成13年4月1日から平成14年3月31日までの財務諸表について、監査を行いました。この監査にあたって、当監事は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、通常実施すべき監査手続きを実施致しました。

監査の結果、当監事は上記財務諸表が平成14年3月31日現在の情報知識学会の財務状況を適正に表示しているものと認めます。

[資料5] 平成14年度事業計画

(1) 会議

- ・ 総会 平成14年5月18日開催
- ・ 理事会 年4回開催
- ・ 評議員会 年1回開催
- ・ 編集委員会

(2) 事業

- ・ 第10回(2002年度)研究報告会 平成14年5月18日開催
- ・ 第7回SGML/XML研修フォーラム 平成14年10月22～23日開催
- ・ 月例懇話会(6/18, 7/18, 9/18, 10/18, 11/18, 2/18, 3/18) 開催
毎月18日(5月、8月、12月、1月を除く)午後6時半より
世界貿易センタークラブ(JR浜松町駅傍・世界貿易センタービル38階)に於いて、情報知識に関するさまざまな話題を選び、自由闊達に懇談を行う。

(3) 部会

- ・ CODATA部会
「CODATA部会では、これまでCODATA本部からのNews Letterの配布を中心に部会員への連絡を行ってまいりましたが、平成14年度からは隔月の研究会を開始、部会ホームページの開設、国内外のデータ活動の連絡調整など、科学技術に関するデータ活動の幅を順次拡大すべく行動を開始しております。従来 of データ活動の維持・発展に加えて、時代の要請を意識してデータ活動の社会的役割の見直しと問題設定による新たな活動の開始を検討しております。」
- ・ 人文・社会学系部会
本年も、引き続き「歴史研究と電算機利用ワークショップ」を開催してまいります。開催日時については、9月・12月・3月を予定しております。
- ・ 専門用語研究部会
第15回専門用語シンポジウム(平成14年12月)開催ほか。

(4) 刊行物

- ・ 情報知識学会誌 第12巻1～4号
- ・ 第10回(2002年度)研究報告会講演論文集
- ・ ニュースレター No. 60～61

〔資料 6〕平成 14 年度予算

〔収入の部〕（単位：円）

科 目	H13年度実績	H14年度予算	差 異
前年度繰越金	1,103,321	715,038	-388,283
会費収入（個人）＊1	2,770,330	3,128,000	357,670
会費収入（法人）	1,440,000	1,440,000	0
学会誌別刷代	46,300	50,000	3,700
講演論文集代	111,000	120,000	9,000
雑収入	36,001	40,000	3,999
事業収入	963,345	1,000,000	36,655
利息	1,105	2,000	895
合 計	6,471,402	6,495,038	23,636

＊1. 正会員376名、学生会員30名として算出。

〔支出の部〕（単位：円）

部 門	科 目	H13年度実績	H14年度予算	差 異
ニュースレター編集部門	印刷代・送料	210,252	270,000	59,748
ニュースレター編集部門	編集経費等	0		0
学会誌編集部門	印刷代・送料	1,098,817	1,500,000	401,183
学会誌編集部門	編集経費等	65,500	100,000	34,500
学会誌編集部門	電子化調査	0	0	0
企画部門	セミナー備品等	333,730	350,000	16,270
企画部門	講師謝礼等	184,300	200,000	15,700
研究報告会	講演論文集印刷代	288,540	300,000	11,460
研究報告会	親睦会経費	0	0	0
総務部門	入会案内作成費	99,036	0	-99,036
総務部門	理事会実施費用	115,420	120,000	4,580
総務部門	部会活動支援費	0	200,000	200,000
事務局・その他	事務用品代	65,519	60,000	-5,519
事務局・その他	通信費・送料	287,607	300,000	12,393
事務局・その他	印刷代（封筒等）	92,925	100,000	7,075
事務局・その他	振込手数料	8,400	10,000	1,600
事務局・その他	総会実施経費	45,130	30,000	-15,130
事務局・その他	業務委託費	1,950,000	1,800,000	-150,000
事務局・その他	交通費その他	511,188	600,000	88,812
事務局機構拡充積立金		400,000	200,000	-200,000
予備費／次年度繰越金		715,038	355,038	-360,000
合 計		6,471,402	6,495,038	23,636

情報知識学会／役員分担表

	<氏名>	<分担>	<所属>
会長	藤原 鎮男	会務総括	
副会長	藤原 譲 〃	日本学術会議情報学研究連絡委員会 学会誌編集委員	工業所有権総合情報館
副会長	細野公男 〃 〃 〃	部会活動活性化・財務総括 専門用語研究部会長 SGML/XML研修フォーラム実行副委員長 学会誌編集委員	慶應義塾大学
副会長	根岸正光 〃 〃	運営委員会委員長 SGML/XML研修フォーラム実行委員長 学会誌編集委員	国立情報学研究所
常務理事	石塚英弘 〃	SGML/XML研修フォーラム実行副委員長 学会誌編集委員	図書館情報大学
常務理事	西脇二一	学会誌編集委員	奈良大学
常務理事	安永尚志	学会誌編集委員長	国文学研究資料館
理事	有川節夫		九州大学
理事	石川徹也	学会誌編集委員	図書館情報大学
理事	岩田修一	CODATA部会長	東京大学
理事	岩淵幸雄	SGML/XML研修フォーラム実行委員	日本創造学会
理事	太田泰弘	専門用語研究副部会長	文教大学
理事	神立孝一 〃	人文・社会学系部会長 学会誌編集委員	創価大学
理事	菊田昌弘	SGML/XML研修フォーラム実行委員	(株)シナジー・ インキュベート
理事	国沢 隆	学会誌編集委員	東京理科大学
理事	小山照夫		国立情報学研究所
理事	後藤智範	学会誌編集委員	神奈川大学
理事	菅原秀明	学会誌編集委員	国立遺伝学研究所
理事	高橋靖明	SGML/XML研修フォーラム実行委員	凸版印刷(株)
理事	田畑孝一		図書館情報大学
理事	中川 優 〃	第10回研究報告会実行委員長 学会誌編集委員	和歌山大学
理事	長瀬真理		静岡大学
理事	名和小太郎	学会誌編集委員	国際大学
理事	平田 周	月例懇話会	I T経営研究所
理事	福室淳宏	SGML/XML研修フォーラム実行委員	大日本印刷(株)
理事	松田純一		(株)日立製作所
監事	宋戸駿太郎		(財)環太平洋経済研究所
監事	月見里禮次郎		多元空間／えんがわ